

9 自立活動の指導のヒント

病気の種類別に具体的な指導内容を作成して、指導すべき内容を明確にします。

《気管支ぜん息児の場合（参考例）》

区分 ー健康の保持ー

項目 a) 自己の病気の状態の理解

- アレルギー反応の仕組み
- 気管支の構造と機能の知識・理解
・病状や治療法等に関する知識・理解
- 感染防止や健康管理に関する知識・理解
- b) 健康状態の維持・改善等に必要
な生活様式の理解
- 各種の生活様式
- c) 健康状態の維持・改善等に必要
な生活習慣の確立
- 各種の生活習慣の形成及び定着化
- d) 諸活動による健康状態の維持
- 各種身体活動等による健康状態の
維持・改善等、生活リズム調整等

☆可能な限り自己管理する力を付けること
を目指し、主体的に取り組めるよう
な指導（活動）を準備します。

《病気理解を図るための指導に際して》

病気について子どもを必要以上に怯え
させてしまったり、教師の理解不足のた
めに禁止事項が増えてしまったり、して
はいけないことをさせてしまって病状を
悪化させたりすることは絶対に避けな
ければなりません。したがって、正確な知
識を提供するだけで解決できることだ
けでなく、子ども自身が病気を理解す
ることによって生きる力が湧いてくる
ような教育活動の一環として、自立活
動に取り組むことが重要です。

◇進行性の病気の理解の指導

直接、自身の生死について考え、死
を受容するための心の葛藤を生むこと
も多く、時間をかけた個別指導が基本
となります。

◇服薬や検査の継続が必要な病気理解の指導

家庭や主治医と連携し、服薬や検査
の必要性についての理解を深めます。
病気への 負い目を感じている場合も
あり、心情的な 面を十分に配慮した
指導を心がけます。

こころのケア



病気になった子ども自身も家族も様々な思いを抱えています。特に本人は、病気による生活規制を強いられる日々の中で、「なぜ自分だけが…」という思いや辛い治療や入院生活の経験などから、心が不安定になってしまう（心に傷を負う）ことがあります。

体調は悪くなくさそうなのに元気がない、感情の起伏が大きいといったこと、がまんや無理をしすぎることも多くあり、体調を気づかう温かい言葉かけやさりげない配慮などが、子どもの心を元気づけてくれます。

また、通院や入院、家庭での体調管理などで家族（特に母親）の負担も大きいものです。病気への不安や心配はもちろんのこと、家族の生活リズムにも影響することも多々あります。併せて、病気の子どもの「きょうだい」への支援も必要なことを、関わる周囲の大人が意識していることが大事になります。

「ショック」「怒り」「悲しみ」「落ち込み」「絶望」「自責」など心が揺れながら、立ち止まりつつも歩み続ける子どもや家族の「今」の思いに、心を寄せたいものです。